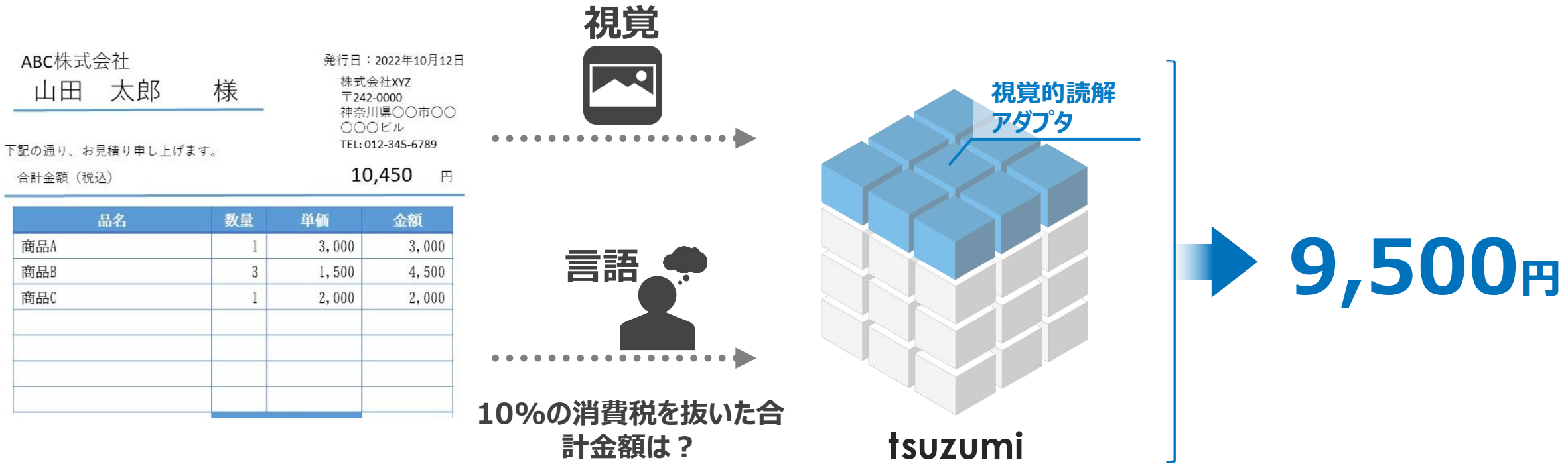
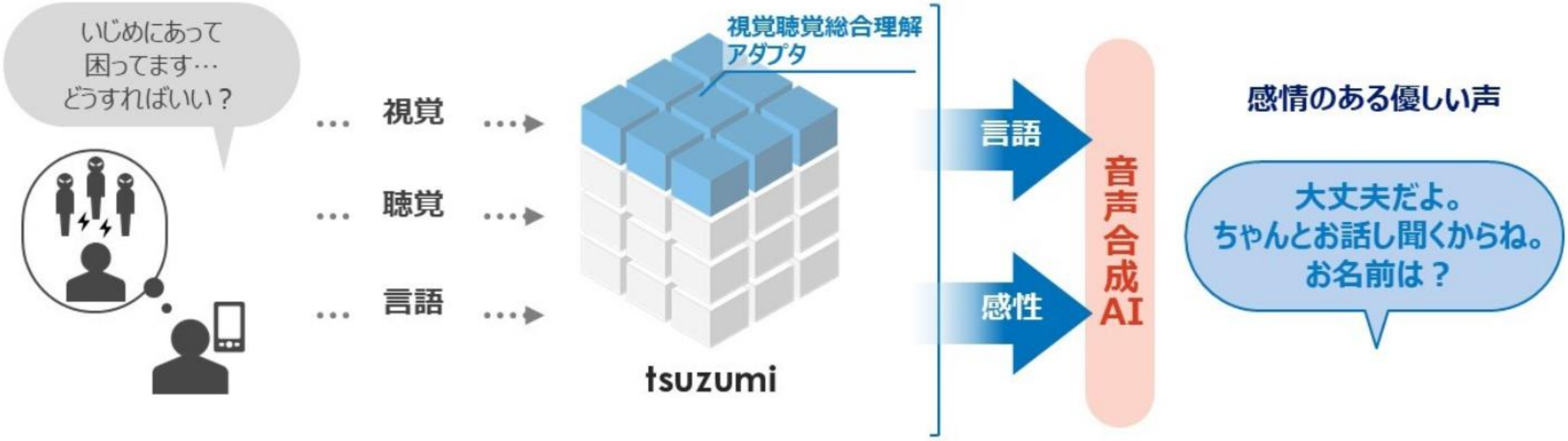
（参考）モーダル拡張 言語＋視覚

- 言語による質問だけでなく、文書画像を提示しながらの質問が可能
- 請求書や仕様書など画像付き文書を用いる業務やRPA業務に適用可能

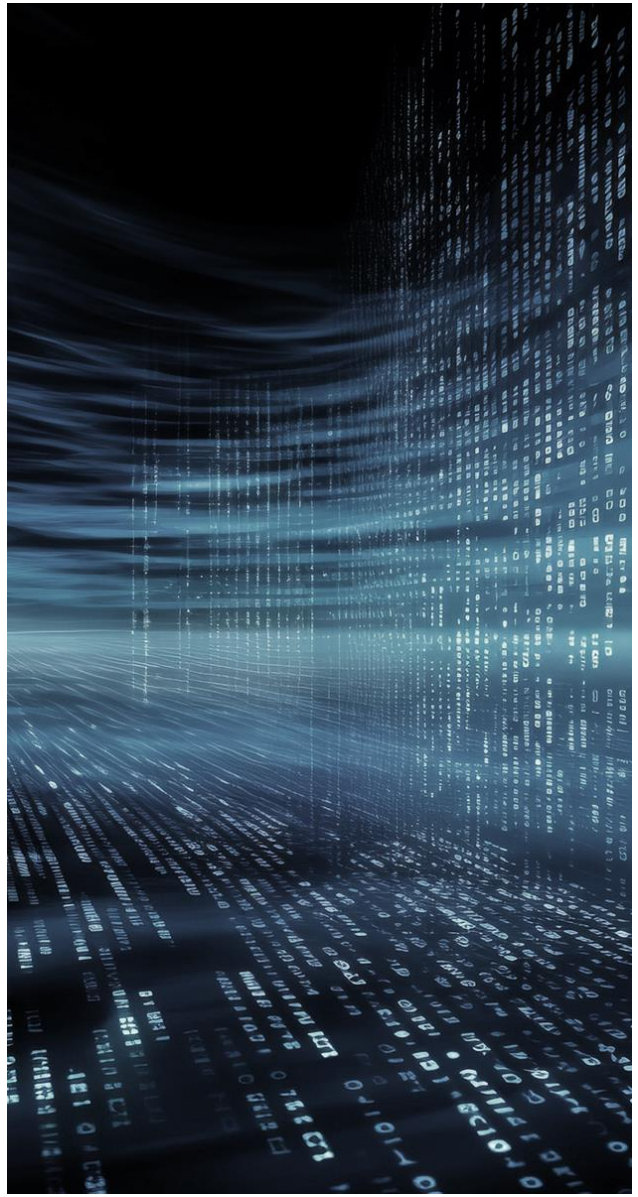


（参考）言語＋視覚＋聴覚



© 2024 QUNIE CORPORATION

NTTグループのAI活用に関する今後の展望（4/6）



1980年　自然言語処理の研究開始

2020年　LLM「NTT版BERT」をリリース

2023年 10月　NTT版LLM「tsuzumi」
日本語・英語対応、文書読解・図表読み込み
社内外トライアル開始

2024年 3月　**NTT版LLM「tsuzumi」商用開始**

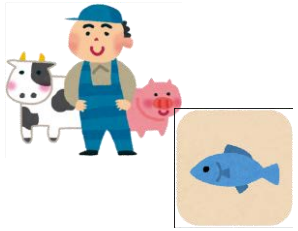
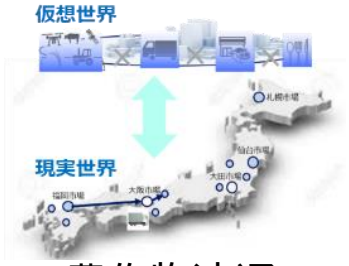
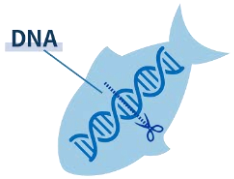
2024年 4月以降　**視覚・聴覚等マルチモーダル対応・多言語対応・チューニングの高度版など順次商用リリース**

© 2024 QUNIE CORPORATION

NTTグループのAI活用に関する今後の展望（5/6）

農業生産に加え、流通・販売・消費・食までの領域で各専門AIをパートナーと連携し取組み/検討中

AI適用に取り組む主な領域

生　産	流通・販売	消費・食	環境
高度施設園芸	 畜産・水産	気象・地図	 農作物流通DX	有機野菜・食材宅配	残渣堆肥化
 品種開発 バイオ・遺伝子	自動化・省力化	トレーサビリティ	食文化継承・ 食と健康のWell-being	バイオマス発電

専門AI

- 品種開発AI
- 土壌分析AI
- 養殖関連AI
- 畜産関連AI
- 経営支援AI
- 施設園芸（完全自動化）
  - 自動環境制御AI
  - 品質状況確認AI
  - 病害虫防除AI
  - 自動収穫/選果AI
- 気象予測AI
- 可変施肥AI
- 自動運転AI
- NW品質予測AI
- 需給予測AI
- 農産物流通AI
- 物流品質予測AI
- 食と健康関連
- 料理人技術継承
- 高付加価値食材
- エネルギーマネージメント
- カーボンクレジット
- 循環型作物土壌評価

© 2024 QUNIE CORPORATION

NTTグループのAI活用に関する今後の展望（6/6）

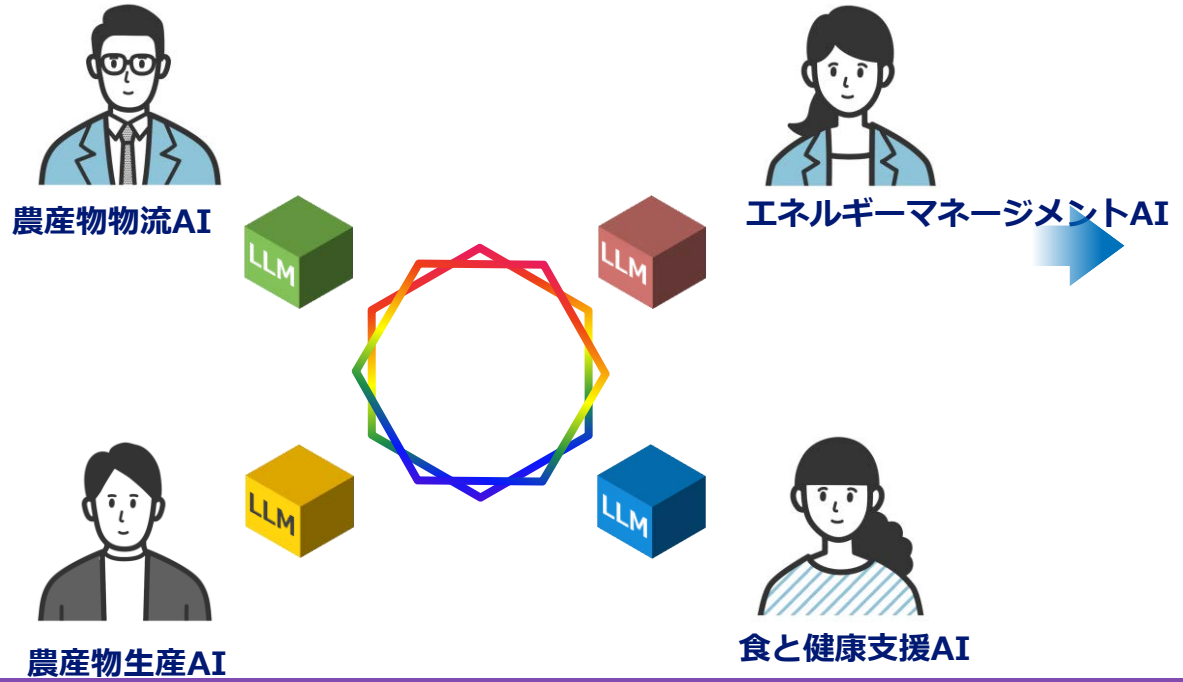
私たちはタスクに応じて必要な小型 AIがつながり、集合体として動作するアーキテクチャを、星がつながり星座になっていくイメージをもって**「AI コンステレーション」**と呼んでいます。
専門AI 同士を自律的に協調させることで、今 までにない、知識・価値を生み出し複雑な食農領域の課題から社会課題全体の解決をめざしたいと考えています。

専門AI同士を自律的に協調させ生産上の課題からより広い課題まで様々な課題解決を目指す

＜生産上の課題を相談＞

- 経営支援AI
- 自動環境制御AI
- 品質状況確認AI
- 病害虫防除AI
- 自動収穫/選果AI

＜より広く複雑な課題を相談＞



生産上の課題解決

農業従事者の経営相談

食農領域全体の課題解決

**地域の活性化等
地域全体の課題解決**

© 2024 QUNIE CORPORATION